

小鹿野散策マップ

小鹿神社

小鹿神社は、明治43年の洪水等により、腰之根の現在地へ移転した。小鹿神社に合祀された諏訪神社の社殿は、安永4年(1775)の建立で、規模や様式は小鹿神社旧本殿とほぼ同じ。



小鹿神社



国道299号



風情ある建物



昔からある井戸



わらじカツ丼の食べられる店



十輪寺



真言宗。本尊は十一面観世音。埼玉県指定文化財の絹本着色十三仏、木造金剛力士像と小鹿野町指定文化財の十一面観世音坐像がある。

松

全体の形がつるが羽を広げたように見える。樹齢約200年

時の鐘

戦争で供出した物を昭和40年に再建。今でも町内に時を告げ続けている。

芭蕉句碑

芭蕉の流れをくむ小鹿野の俳人「中阿坊朴叟」が芭蕉の100年忌に建てた。「梅が香にのつと日の出る山路かな」

逆桜羅天石仏

江戸時代末期ころのもの。カルラ王はインド神話に現れる空想上の大怪鳥で仏法を護持する八部衆の一人。石像塔のカルラ王は日本ではこの一基のみ。(笛の音色で悪い龍を退治するという)



井戸

小鹿野町は水脈に恵まれており、どの井戸も地下3m位の所にはなみなみと水をたたえている。そのうちのいくつかは現在も人々の生活になくてはならないものとなっている。特に大火を逃れた原町には、今でもそのままの形を残したものが多い。



わらじカツ丼

昭和初期より小鹿野名物として親しまれているわらじカツ丼は、ロースとモモ肉の2枚のカツがわらじのように大きいことからその名がある。(マークのある店で食べられる)

成田横丁

常盤屋の脇から南裏通りへ抜けられる道。途中に成田山より勧請された不動尊があり、ここへの参拝に通ったため、この名前が付けられた。ここにはかつて愛宕座があり、当時の人のデートスポットや楽しみの場としてたいへん賑わっていた。



朝日通り

朝日通りには、昭和30年ころ映画館小鹿野キネマがあった。通りは朝まで若者や娯楽を楽しむ人たちが賑わい、人々は毎夜朝日を見て帰るようだったことからこの名前が付けられたといわれている。

歌舞伎：絵・写真

商店街の中央に位置する「夢鹿蔵」を中心に、周辺の商店街の店先には、様々な歌舞伎シーンの看板が設置されている。

旧小鹿神社

明治43年の洪水等により、腰之根地内へ移転し、本殿はそのまま残された。桁行142cm、梁間153cm唐破風の向拝が付き、精巧な彫刻を施した社殿である。